

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（松前町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	<p>【ICT活用について】</p> <p>①教頭の声かけから始まる、担任間での実践交流、使い方の教え合い</p> <p>【校務分掌】</p> <p>①「任せ認める」ことによる創造的な取組</p> <p>②教頭業務の見える化と校務運営の効率化と活性化 ・校務運営委員会等で教頭業務を主任層に伝え、人事、加配、予算等学校資源のことも含め、行政の仕組みを含め理解を深める。</p> <p>③行事等の反省と次年度の計画のリンク ・今年度の反省を生かし、次年度の計画を立案。次年度に引き継いだ担当者は、微調整のみ</p> <p>【研修】</p> <p>①ミドルリーダーを講師とした校内ミニ研修の実施</p>	<p>①新しい ICT 機器導入時、有用な実践を行ったり見つけたりした時、教頭から声をかけることによって、自然な交流が生まれた。</p> <p>①教職員のスキルを見取することで適正な配置を行い、業務の均等化に繋がった。また、「承認」することで、新しい取組にチャレンジする雰囲気が作られた。</p> <p>②人事評価面談において、次の主任候補より「分掌の全員が自分事として考えなくてはならない」や「人事異動があっても教育活動が停滞しないよう、後期は主任層の仕事を観察したい」等の発言があった。主任層の意識が、次の主任の育成につながっていると実感している。</p> <p>③行事等は適時見直しを行い、「効率化」「目標の準拠」をキーワードにしながら業務を推進することができた。</p> <p>①各キャリアステージにおける役割や責任を自覚し、それぞれ実践内容をとおして交流することで効果的な研修となった。</p>
	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	<p>①校務用サーバー更新に伴う、不要なファイルの消去やフォルダの階層整理</p> <p>②個人の USB 使用の禁止と学校用 USB の準備</p> <p>③共有フォルダとクラウドサービスの併用 ・職員室内で業務に携わるデータは「共有フォルダ」、授業や特別活動等、生徒の活動に関わる大多数をクラウドサービスとすみ分けている。 ・iPad 内に生徒の評価物をポートフォリオ化したり、デジタルで教材を配布したりすることで、授業の効</p>	<p>①過去の不要なファイルの消去やフォルダの階層整理を行うことで、効率よく必要なファイルにたどり着くことができるようになった。また、全分掌で共通のルールで整理することとし、分掌変更後にもスムーズに作業が行えるようにした。</p> <p>②個人の USB 使用を禁止し、学校で用意した USB を利用することとし、持ち出しの際には必ず教頭の許可を得ることとした。</p> <p>③「共有フォルダ」は Windows、「一人一台端末」は iPad であり互換性がないことが難点だが、その中で、本校の教職員はうまく使い分けている。メンター研修等で、互いの実践を交流し、ICT の活用スキルアップにつながっている また、感染症等で長期欠席となった生徒への教材提</p>

	率化を図っている。	供も、クラウドサービスを活用し容易に行うことができ、学習の保障にもつながっている。
②働き方改革との関連性について	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	<p>①タイムカードによる勤務管理と毎月の超勤時間伝達 (働き方改革の意識化)</p> <p>②担任の余裕時間の創出(協働体制の構築)</p> <p>③学校目標を意識することによる業務の焦点化 (チーム学校の創造)</p> <p>④クラウドサービス活用の際の業者委託や町教委独自のICT研修会の実施</p>	<p>①毎月自分の超勤時間を知ることによって、勤務時間を意識した働き方ができるようになった。</p> <p>②管理職による教科担当、養護教諭や事務職員、SSSへの業務移譲によって、学級担任が毎日の教材研究に集中することができるようになった。</p> <p>③短期での目標を焦点化し、人事評価を利用して承認し、アドバイスすることで、意欲的に業務に取り組む姿が増えた。</p> <p>④行政の「働き方改革」への理解と教職員の積極的な業務改善によって、行政と学校との協働体制が構築された。</p>
○課題把握と改善点について (研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	<p><b>【学校組織の活性化】</b></p> <p>①複式学級指導と校内分掌に加え、町内での役割も担うことによる、一人あたりの業務量の増加</p> <p>②ミドルリーダーの育成について ・ミドルリーダーが異動した後(ネクスト)を考えた校内人事を行うことが難しい。</p> <p><b>【データの管理、保存の在り方】</b></p> <p>①データ管理や保存の在り方に関する共通化の指針</p> <p><b>【働き方改革との関連性】</b></p> <p>①業務の精選の中で、地域関連行事のスリム化を進めるにあたり、地域の理解を得ること</p> <p>②教員採用試験の倍率低下が言われる中、学校だけでなく「教頭会」等も含め真剣に働き方改革を進めていかななくてはならない。ICTの利活用が軌道に乗りつつあるものの、本来の業務の圧縮が進んでいないことから、在校時間の圧縮につながっていない。</p>	<p>①業務の個人担当から分掌全体で受け持つ協働体制の構築</p> <p>②学校長の権限と教頭の具申をうまく組み合わせることを、これからも研究していきたい。</p> <p>①これまでデータの管理などについて、個人ごとから学校ごとなど、ある程度の共通化が図られてきた。しかし、人事異動などを考慮をすれば、市町村さらには渡島などで共通化を図っていくことは意義があることと思う。そのような面で、渡公教の共通取組シートのような取組はありがたい。</p> <p>①地域の行事や集まりの中で、積極的に「働き方改革」について説明し、これからの学校と地域の関係について共通理解を図ること</p> <p>②共通取組シートを書いて気付いたことは、人的管理・物的管理・教育課程の管理の関係性があいまいになっているということである。教頭会会員で分担し、三管理のどれかにクローズアップして、研究を進めてみてもいいのではないかと考えた。また、「活性化された組織」とは何か？を定義づけしてみる必要もあるのではないかと。</p>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（福島町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一部教科担任制と授業交換制の導入</li> <li>○チーム経営方式を取り入れ、組織的対応の日常化</li> <li>○職場内の活気とコミュニケーション</li> <li>○日常の授業観察と指導助言 特に初任段階の教員に対し、努力や成果を認めながら適宜指導助言を行って、資質・能力の向上を図っている。</li> <li>○必要に応じて分掌部会に参加し、校長の示すビジョンの実現に近づけるような行事の提案が行われるように、構想や段取りにおいて働きかけを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が全校児童を指導対象の意識に立ち、児童理解に努め、授業改善に活かした。</li> <li>・児童のために新しい対応を創造しようという意欲が高くなってきている。</li> <li>・児童理解や問題解決に向けた話し合いが積極的に行われている。</li> <li>○明らかな成果は見られないが、個の資質・能力の向上によって、組織全体の活性化が</li> <li>○伸ばしたい力やねらいを明確にして、行事等の提案ができるため、行事自体の精選や内容の精選を行うことができた。</li> </ul>
②働き方改革との関連性について	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作成文書の蓄積、指導技術の共有</li> <li>○共有フォルダに各学年、分掌毎にフォルダを作成し、過年度のデータを参考に提案の作成や授業実践を行っている。</li> <li>○共有フォルダには通し番号をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有のスピード化と確実性が向上し、業務の効率化が進んだ。</li> <li>・児童一人一人の状況を多面的に捉えることができた。</li> <li>○過去のデータを簡単に確認できるため、年間を見通した自分の役割を把握することができる。また、効率的に提案文書を作成することができる。</li> <li>○共有フォルダに保存された各学年の教科での実践を参考に単元計画を作成したり、プリントを活用したりすることができる。</li> </ul>
③課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙媒体を介さない職員連絡</li> <li>○保護者当て文書の一部メール配信</li> <li>○職員会議の精選</li> <li>○週1回の職員朝会と日課表の工夫による放課後に行う、分掌部会や授業準備、採点業務等の時間の確保。</li> <li>○職員会議のペーパーレス化</li> <li>○定時退勤日、最終退勤時刻の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打合せ時間を短縮できた。</li> <li>・保護者が直接目に触れることで、スムーズな進行につながった。</li> <li>・議題を予め全員で周知でき、建設的な意見の交換ができた。</li> <li>○教職員一人一人が最終退勤時刻までに業務を終わらせるように、効率的に放課後の業務を推進しようとする意識が定着した。</li> </ul>
	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の意欲づけ、意識改革に関すること</li> <li>○情報の活用と収集、人材育成</li> <li>○年度初めから教職員とのコミュニケーションを図るための時間を確保し、信頼関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育者として高い識見と専門性をもち、ビジョンを共有して個々に理解を促すようにする。</li> <li>・情報収集を的確に行い、それを活用できるように準備するとともに、評価とともに学校の活性化につなげていく。</li> <li>○教頭のコミュニケーション能力の向上</li> </ul>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（知内町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務運営委員会の定期的な開催</li> <li>特別委員会の活用</li> <li>町研組織再編に係り校内分掌組織もリンクできるよう再編</li> <li>分掌や特別委員会をベースにしなが、目的や事態に応じて弾力的にメンバーを招集</li> <li>若手教員の育成に際し、メンターチームを活用</li> <li>働き方改革コアチームによる教育活動と業務内容の見直しの推進</li> <li>個人面談（雑談も含め）を通した、教職員の意識把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントサイクルの活性化</li> <li>授業の工夫改善につながれた。</li> <li>業務の負担軽減</li> <li>報告・連絡・相談体制の確立</li> <li>教育活動の目的の再確認から児童の変容を重視する意識付け</li> <li>組織として働き方改革に取り組む意識化</li> <li>教職員の閉塞感やストレスの軽減</li> </ul>
②働き方改革との関連性について	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報を含むデータのセキュリティの確認</li> <li>共有データサーバーの活用</li> <li>タブレットのメッセージアプリを利用した情報の共有</li> <li>提出が必要なデータについては、フォルダやファイルに提出日を記載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の情報管理における意識の高まり</li> <li>会議時間の縮減</li> <li>教材等の共有による授業準備時間の縮減</li> <li>朝の打合せの削減</li> <li>提出物のデータ化による担当者の業務負担軽減</li> </ul>
○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務運営委員会による時間外勤務の改善検討</li> <li>定時退勤日の設定</li> <li>部活動休養日の完全実施(中)</li> <li>部活動複数顧問体制(中)</li> <li>アンケートフォームやQRコードの積極的利用</li> <li>職員朝会の廃止・削減</li> <li>会議の書面開催(文書提案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間外在校時間の縮減</li> <li>週2回の部活動休養日の実現(中)</li> <li>部活顧問の時間外勤務の縮減(中)</li> <li>ICT活用による業務縮減(回答・集計の効率化)</li> <li>児童生徒と関わる時間の確保</li> <li>会議時間の縮減</li> </ul>
	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用促進における教職員の温度差</li> <li>業務の偏り</li> <li>教育活動の精選の仕方(児童生徒にとって必要なものかどうかの視点)</li> <li>新しいことへチャレンジする意欲の喚起</li> <li>面談時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のレベルに応じた目標設定</li> <li>ICT研修の実施</li> <li>ミドルリーダーを中心とした業務の均衡化</li> <li>教職員自身が講師やファシリテーター役となる研修を実施し、知識の進化や共有化を図り、意欲喚起につなげる。</li> <li>業務の削減・縮小・簡素化の積極的推進</li> </ul>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（木古内町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	<b>【外部人材の活用】</b> ○町の ICT 支援員を活用したプログラミングクラブの実践や情報モラル教室の授業実践  ○Google ワークスペースを活用した業務の推進	・従来外部人材による単発事業とはならず、計画的に系統立てた指導が可能になった。また、実践そのものが教職員の研修の機会となり、指導力が向上した。 ・各分掌業務について分掌代表が中心となり Google ワークスペースを活用した業務を推進することで、学校全体の業務の効率化が図られたとともに各教職員も積極的にワークスペースを活用するようになり、業務の効率化、組織の活性化が図られた。
	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	<b>【Googleドライブの活用】</b> ○ Googleドライブを使用したデータの共有	・修学旅行、宿泊研修の写真や動画データをリアルタイムで保護者へ配信することができた。また、保護者からの反応も好評であった。 ・職員間の同一データによる協働作業の実現により業務の効率化が図られた。
②働き方改革との関連性について	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	<b>【タブレット端末の活用】</b> ○ Googleワークスペースを活用した職員間の連携強化  <b>【保護者との連携】</b> ○学校安全メールの活用	・職員朝会の回数を削減することができた。また、短時間での職員会議の実現が可能になった。 ・完全ペーパーレス化が実現し、業務の効率化が図られた。 ・職員間の共同作業の実現による業務の効率化と活性化が図られた。 ・会議資料の共有によっ小中の連絡・連携が活性化した。  ・各種案内、学級通信等の送付による保護者との連絡効率の上昇した。
○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の間わりという視点も加味してください）	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	・組織の活性化、業務の負担軽減に向けた具体策の提示	・ICTの活用による事務量の減少。それによる帰宅時間の改善。

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（ 北斗市 ） 教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	<p>＜方針や方向性の共有及び具体化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経営要項の組織図にある分掌の業務をできるだけ具体的にすることで、担当者が自分のすることを明確にイメージできるようにしたこと。</li> <li>○ 見通しの立てづらい新しい取組については、教頭がゴールまでの見通しを一緒に考えたり、ある程度軌道に乗せてから担当者に引き継いだりしたこと。</li> </ul> <p>＜校務分掌の再編＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 喫緊の学校課題に迫るための校務分掌再編(学び研修部にICT推進チームの組織化)。</li> </ul> <p>＜校内委員会運営の工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主幹教諭・各分掌部長と連携した特別委員会の実施。</li> <li>○ 学校評価に関して、学校評価委員会を廃止し、主幹教諭を進行役に据えた校務運営委員会におけるPDCAサイクルの活性化を促進したこと(短期PDCAサイクル確立に向けアンケートのデジタル化)。</li> </ul> <p>＜職場環境・コミュニケーション＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員との緊密な情報交換と日常面談、長所の発掘と評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 業務内容を明確にしたことで、取組の進捗状況が誰にでもわかるようになり、担当者の意識も高まったり、分掌内で協働する場面が増えたりしたこと。</li> <li>○ 新規の企画や立案の苦手な職員も見通しを立てることで積極的に業務を進める姿が見られるようになったり、周囲と相談する機会も増えたりしたこと。</li> <li>○ 具体のICT機器活用法(授業における活用、業務改善につながる活用法など)や教師の指導力向上に関する実践・実務的な研修を計画的に実施できたこと。</li> <li>○ 会議の日程調整から当日の運営、報告書の作成等を担当者(ミドルリーダー)に委ね、教頭は指導・助言に徹することで、教職員の学校経営参画意識を育成していること。</li> <li>○ 学校評価の実施方法と月ごとのPDCAサイクルの見直しを図り、誰が、いつ、何を、どのように実施し評価・改善するかをより具体化し、ICT機器を活用した業務の効率化を図ることができたこと。</li> <li>○ 職員一人一人の長所や考え方が理解でき、組織全体が効果的に連携されること。</li> </ul>
	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	<p>＜文書の共有化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員共有のサーバーの整備と活用。</li> <li>○ 事務職員がデータの保存と管理を担当すること。</li> </ul> <p>＜文書のバックアップ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共有サーバーの破損に備え、定期的にバックアップするシステムを整えたこと。</li> </ul> <p>＜校務支援システムの活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校務支援システム(C4th)のより効果的な活用を図ること。</li> </ul> <p>＜タブレット端末の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットストレージに共有ファイルを作り、朝の打ち合わせや健康観察をGIGAタブレットで共有すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員共有のサーバーを整備し、各分掌や各学年等のデータを保存・共有していること。</li> <li>○ 受付文書を日付ごとに保存管理しているので、鑑だけの回覧で印刷せずに済み、必要に応じて確認したい人だけ見ることができること。</li> <li>○ 複数の担当者を配置。共有データ損失への危機管理体制が充実した。</li> <li>○ 生徒の個人情報に関するデータ管理を校務支援システム(C4ht)に一元化したこと。</li> <li>○ 朝の活動時間も職員室に戻ったり、健康観察を届けたりすることがなくなり、担任が子供のそばにすることが可能になったこと。</li> </ul>

<p>②働き方改革との関連性について</p>	<p>働き方改革との関連に係る具体的な実践について</p> <p>&lt;ICTの活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共有サーバーを効率的に活用し、児童情報や資料などの共有化と整理を進めることで、教職員が必要な情報に短い時間でアクセスできるように改善したこと。</li> <li>○ ICT推進チームを指揮し、業務の効率化を目指したICT機器活用を促進していること。</li> </ul> <p>&lt;校内体制の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 加配教員の活用や専科指導、教科担任制、交換授業の導入。教頭は、そのための計画書や報告書の作成、連絡調整を行うこと。</li> <li>○ 学校評価委員会を廃し、学校評価を各分掌業務に位置付けるとともに、評価項目の削減と重点化、集計業務をICT活用で行い業務を削減したこと。</li> </ul> <p>&lt;日常的な取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの取組の評価と更新を経た教育活動の厳選。</li> <li>○ 出退勤に係るタイムレコーダーの活用や定時退勤日の設定。</li> </ul>	<p>実践における成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 業務の効率化が図られ、教職員のICTスキルも向上したこと。</li> <li>○ Microsoft Teams を活用することで職員間での情報共有が効率化され、打合せ時間の短縮につながったこと。</li> <li>○ 加配教員による専科指導(国語・理科)、TT・少人数指導(算数)、指導教科担当の入れ替え、市補助教員や支援員などを活用することで校務の時間の確保や業務等の負担軽減が図られていること。</li> <li>○ アンケートを Teams(Google)フォームや安心安全メールを活用して行うことにより、集計業務の人員削減、簡素化が図られ業務改善につながったこと。</li> <li>○ 目指すべき方向性を共有できることで、単なる「コストカット」にならず、効果を意識した働き方へとシフトできること。</li> <li>○ 効率的に業務を進めようとする意識が高まったこと。</li> </ul>
<p>○課題把握と改善点について (研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)</p>	<p>視点2に係る具体的な課題について</p> <p>&lt;教職員に関わって&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世代や教職経験などに応じた職員意識の束ね方。</li> <li>○ 学校全体の取組や協働活動に消極的な教職員を、どのようにして取り込んでいくかということ。</li> </ul> <p>&lt;学校運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校長の意や経営方針の解釈の仕方と学校運営に体现すること。</li> <li>○ 業務縮小、会議時間短縮の一方で計画や提案に緻密さが欠けることへの対応。</li> <li>○ ICT機器を活用した業務の効率化と同時進行で、個人情報保護や情報モラルの問題、セキュリティに関する問題を先行して予測しながら取り組む必要があること。</li> <li>○ 学びの保障に向かい、教育の情報化に向けた組織的な取組の一層の推進を図ること。</li> </ul> <p>&lt;連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍における学びの保障と地域・保護者との連携バランスを取ること。</li> </ul>	<p>視点2に係る具体的な改善点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員個々の強みや長所を具体的に認めて、学校変革意識をつぶさにくみ取る力が必要になること。</li> <li>○ 日常的なコミュニケーションを基本とし、教職員それぞれの取組の成果を見える化するなどして共有し、組織の所属感、有用感を実感できる場を増やしていくこと。</li> <li>○ 学校の課題に正対する学校運営としてショートスパンで検証することによって、拡大解釈による業務の非効率化を防ぐこと。</li> <li>○ 教頭が中心となって課題を整理し、全体運営委員会等の場面で協議や周知等をしっかりと行うこと。</li> <li>○ 職員会議や研修の場で、教頭自らもタブレット端末で教職員に課題を出し提出を求めるなどの取組を行う。活用しながらセキュリティ上の課題把握等を積極的・先行的に試みること。</li> <li>○ 教員のICTに係るスキルや活用意識の差を解消するための効果的な取組を進めること。</li> <li>○ コロナ禍で培った学校行事の実施方法等を生かし、早期からの計画的な業務や勤務割振り、学校運営協議会を活用した地域参画型の教育活動を推進することで、現在の教職員のワークスタイルを維持すること。</li> </ul>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（七飯町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>＜令和4年度の重点＞ <b>【視点2】</b> 組織の活性化を促す教頭のマネジメント</p>		
<p>① 学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方</p>	<p>学校組織の活性化の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<p>○学校経営ビジョンを明確に示す。全職員にわかりやすく示し、日々の教育活動に還元していく。</p> <p>○学校評価をもとにミドルリーダーを中心に対話を通して目指す子どもの姿を熟議</p> <p>○重点教育目標を達成するために必要な組織の在り方について協議し決定</p> <p>○プロジェクトチームにより、短期間の検証改善サイクルを通して軌道修正をしながら取組を推進</p> <p>○人材育成の視点で、他校で経験の少ない中堅教員や若手教員を分掌の運営や学校行事の推進担当にあてる人員配置を実現した。</p>	<p>○校長の方針を簡潔にわかりやすくすることによって、全職員がビジョンを意識しながら児童の支援にあたることができた。</p> <p>○学校運営について中・長期的な視点に立ち、学校の方向性がぶれないよう教頭を中心とする総務部で推進管理できた。</p> <p>○校務支援委員会を月に一度開き業務の進捗状況や手立てについて確認、話し合いを持ち、ぶれない学校運営を推進することができた。</p> <p>○職員が主体的に学校経営に参画する意識が浸透してきた。</p> <p>○ベテラン教員のバックアップのもと、分掌運営や学校行事の推進を通して育成を進めるだけでなく、学校運営への参画意識を高めることができた。</p>
	<p>データ管理、保存の在り方の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<p>○共有サーバー（ハードディスク）に保存し、全職員で共有できているが、階層が整理されておらず、データの保管場所にたどりつくのが困難な場合が多々あったので、現状の解決策として、提案と同時にショートカットを作成するようにした。</p> <p>○タブレットで使用した方が便利なものは、クラウドを活用するようにした。【各分掌、学年、特別委員会の会議、提示資料や、共同編集（入力）が必要なものなど】</p> <p>○C4th 及び端末（クラウド）を活用し、今年度は、出席簿、指導要録、出退勤、休暇処理、連絡掲示板等により業務改善やデータの管理・保存の効率化を行った。また、重要なデータやメール送受信が難しいデータについては、町教委と連携し、改善を図った。（学校だよりの各校への配信や人事評価シート等）</p>	<p>○以前よりデータによる共有が進み、組織内での共通理解につながった。</p> <p>○クラウド利用の利便性を伝えることができ、活用する職員が増えた。</p> <p>○データ共有・保存送受信のスマート化（例→容易な文書の編集・閲覧、クラウドによるデータ共有・保存管理の便利さ等）</p>



<p>② 働き方改革との関連性について</p>	<p>働き方改革との関連に係る具体的な実践について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の目指す方向性の焦点化による教育活動の精選化・重点化</li> <li>○コミュニティースクールと地域学校協働活動の活性化による教育活動の充実</li> <li>○これまでの常識にとらわれず、大胆な業務の見直しを行った。</li> <li>○ICT 活用のスキルアップのため研修を実施した。また、生徒へのアンケートをタブレットで行った。</li> <li>○Googleチャットを活用して、各教室と職員室で連絡を取り合い、生徒の出欠確認を行った。</li> <li>○個に頼るのではなく、組織的に推進するという意識を理解、推進することが「働き方改革」につながるという共通認識をもたせた。</li> <li>○メンタルヘルス対策と地域との協働の推進による学校支援体制</li> </ul>	<p>実践における成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○無理なく、無駄なく、効果的に教育活動を進めるかがポイントであり、今までの当たり前を見直す必要性を全教職員に浸透させることができた。</li> <li>○それぞれの教職員が協働することや学校と地域が連携することにより、教育の質の向上を図ることができている。</li> <li>○通知表の所見欄を廃止し、個人懇談会での児童の状況の説明というように、より質の高い教育活動に改善している。</li> <li>○授業や授業以外でも活用が増え、ペーパーレス、自動集計などにより時間にゆとりができた。</li> <li>○移動せずに、タイムリーに生徒の出欠確認ができた。</li> <li>○働き方改革の「コア・チーム」が中心となり、校内の業務改善を具体的に推進している。</li> <li>○勤務時間内にそれぞれがタイムマネジメントしやすい環境となってきた。</li> </ul>
<p>○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）</p>	<p>視点2に係る具体的な課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の目指す姿をいかに浸透させていくかが重要と考える。そのためにはGIGAスクール構想と働き方改革の両輪で進める必要がある。その上で、教頭として中・長期的な視点に立ち、学校全体をコントロールする必要がある。</li> <li>○喫緊の課題に対応する特別委員会を設置することは大事だが、そのための会議や仕事量が増えてしまう。</li> <li>○新たな教育課程への意識を高め、学校運営や教育課程改善への積極的な関わりを促す人材育成</li> </ul>	<p>視点2に係る具体的な改善点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の意見が自由に発言できる職員室の環境づくりにより、「創意」と「相違」が「総意」となる学校づくりが必要。また、学校の目指す姿の具体的な方向を主幹教諭や主任などミドルリーダーと共有することが重要</li> <li>○短期間で成果が出せるような目標と計画を立案、実行する組織とする。</li> <li>○北海道教員育成指標に基づく、キャリアステージに応じた自己評価を促し、自ら学び続ける教員の育成を図る。</li> </ul>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（鹿部町）教頭会

<p><b>【研究主題】</b> ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p>＜令和4年度の重点＞</p> <p><b>【視点2】</b> 組織の活性化を促す教頭のマネジメント</p>		
<p>○「学校組織の活性化とデータの管理、保存のあり方」</p>	<p>活性化を実現した学校組織 ICT機器活用（ICT推進委員⇄ICT支援員）</p>	<p>実践における成果について</p>
	<p>ICT推進委員（小中）⇄ICT支援員を連携させ教職員研修へつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿部町独自でタブレットを一人1台配布している。それを利用し、調べ学習や、家庭学習に取り組ませている。 (ラインズやスタサブの紐づけ設定の依頼) (Teamsの活用について等)</li> <li>・Fomsを使用し、小テストや宿題、協働学習、評価等を授業に取り入れられるようにしている。 (授業改善の視点)</li> <li>・C4(シーホース)校務支援システムの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teamsの活用方法について、実戦形式での研修会を継続的に行っている。まだまだ個人差がある。</li> <li>・小グループ、課題テーマ別研修を今後設定していく計画。(月1回)</li> <li>・年度当初の初期設定や移行依頼した。</li> <li>・電子黒板の活用や授業の中で活用した実践例を基に研修計画を立てていくこととした。</li> <li>・転校生情報をシステム上で共有。</li> </ul>
<p>○「働き方改革との関連性」</p>	<p>データ管理等が働き方改革に及ぼす影響</p>	<p>成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Share RAY(シェアレイ)システムによる教育委員会、小、中、(管理職・事務・担当)との情報共有。</li> <li>・共有サーバーへのデータ保管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール等よりやり取り保管が簡易である。</li> <li>・学校行事資料(修学旅行・宿泊研修)の継続活用</li> </ul>
<p>○課題把握と改善点について(研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)</p>	<p>視点2に係る具体的な課題について</p>	<p>視点2に係る具体的な改善点について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急速にICT化が進んだため、完全に教育のデジタル化に移行できているわけではない。</li> <li>・長期欠席の児童生徒のため、Zoom等で、配信を行っているが、積極的に授業視聴に参加できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員による研修会や、町教育研究所と連携したICT研修の機会を設けるようにしている。</li> <li>・不登校対策委員会を組織し、教育委員会や保健福祉課とも連携、医療機関(発達の)ともつながって対策を講じていく。</li> </ul>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（森町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	1 組織の3要件に基づくアプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的の共有</li> <li>・協働(貢献)意欲の向上</li> <li>・コミュニケーションの深化</li> </ul> 2 リーダーシップを発揮した組織へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメントとリーダーシップについて研修</li> <li>・経営自己評価を生かした各校での実践</li> </ul>	○各校で自校の「めざす姿」をレポート(A41枚)にまとめ交流した。これにより、お互いの考え方・経験から学びを深め、自校の「めざす姿」について、新たに策定・修正へと結びつけることができた。 ○各校の「学校ランドデザイン」を持ち寄り、交流するとともに、マネジメントとリーダーシップについての研修を深めた。また、経営アンケートの疑似体験により、リーダーシップに関する自己分析を通して振り返り、今後の課題を整理することができた。
	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	1 データ管理、保存等に係る確認と強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護等に係る規程の確認</li> <li>・データ管理に係るマニュアルの点検・見直し</li> </ul> 2 校務支援システム導入への準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の実施</li> <li>・運用に係るマニュアル等の整備</li> </ul>	○Microsoft Teams や One Note 等の活用により、業務の効率化を図るとともに、セキュリティにおいても安全性が確保されている。また、Teams においては、町内の各校とWeb会議やデータの共有が可能であり、学校間の組織の活性化にも有効となっている。 ○校務支援システムについては、令和5年度の開始に向け、後期から準備が進められている。今後、各校で活用方法など、共通理解を図るとともに、これまでのシステムからの切り替えをスムーズにすることで効果的な運用に繋げていきたい。
②働き方改革との関連性について	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	1 PDR サイクルによるマネジメントの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・P「準備」に係る項目確認・実施</li> <li>・D「行動」に係る項目確認・実施</li> <li>・R「評価」に係る項目確認・実施</li> <li>・サイクルの進捗状況の確認</li> </ul> 2 「Road」を活用した働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革を推進する8段階のプロセスの活用</li> </ul>	○「学校における働き方改革」マネジメントモデルを教頭会の研修で共有した。改善サイクルは、各校の実態に応じて行っているが、教職員の意識改革が大切であることを確認することができた。 ○リーダーシップの視点でまとめた「Road」第3章「8段階のプロセス」を上記のマネジメントモデルと合わせて活用することで取組が強化されることを確認した。また、様々なアイデアが生まれるよう、管理職の働きかけや姿勢も重要性であることを認識した。
○課題把握と改善点について (研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	1 令和の日本型学校教育の実現を目指したマネジメントの工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を生み出すマネジメントの推進</li> </ul> 2 チーム力強化を目指した組織マネジメントの工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・森町教対協の取組による学校種を超えたマネジメントの推進</li> </ul>	○ICT活用力の育成を町内各校で連携し推進することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業改善の一助としている。 ①情報教育育成計画の作成・活用(小中一貫) ②情報モラルハンドブックの作成 ②情報モラル講演会の実施 等 ○森町教対協により、幼・小・中の連携・協働による既存の活動と新時代の学びを支える環境整備との整理をする必要がある。

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」 （八雲町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
①学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人一人の学校経営参画意識を高めるための、校務分掌への人材配置</li> <li>・困ったことがあった際の組織的対応の徹底（個で対応しようとするしない）</li> <li>・特別支援委員会の定期開催による、児童生徒理解の促進</li> <li>・報告・連携・相談・確認の徹底による、教職員間の連携の教科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーを中心に主体的に進める姿が見られるようになり、学校評価でも改善の傾向がみられる</li> <li>・組織的対応が浸透してきたことによって、安心して業務にあたれるようになってきている</li> <li>・児童理解が進み、指導体制や保護者対応などで一貫性が出てきている</li> <li>・職員室の協力体制が増し、建設的な意見が多くなった</li> </ul>
	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校共有フォルダによる、データの一括管理。</li> <li>・成績処理をデータ化し、どのデータも全職員が処理できるようにした</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有がしやすくなったことで業務かかっていた時間が短縮でき、生徒指導理解の推進や働き方改革にもつながっている</li> </ul>
②働き方改革との関連性について	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した教材の全校での共有（ジャムボードやスライドなど）</li> <li>・面談などによる、ワークライフバランスを考えた働き方の周知と促進</li> <li>・事務職員の学校運営への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した教材の共有化やデジタル化によって、印刷時間等が大幅に短縮し、勤務時間の削減が図れた。</li> <li>・個々が主体的に働き方改革に関わることで、時間外在校等時間の減少が見られた。</li> <li>・働き方改革の目的を全体で共有することで、各々に意識改善が見られ、成果が表れている</li> </ul>
○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個だけに頼らない、組織的な取り組みが進むよう助言、アドバイスのあり方。</li> <li>・ミドルリーダーによる業務推進の活性化</li> <li>・データ管理や保存の仕方の徹底。（職員が作ったデータは個人の所有物でなく、学校全体のものという意識の周知徹底）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドルリーダーに任せたものはまず実行し、改善点はその都度改善し次回に活かすという視点で関わっている。</li> <li>・データの保存の仕方やフォルダ管理について揃えることと定期的な点検等が必要</li> </ul>

R04 渡公教「共通取組シート 2022（兼実践のまとめ）」（長万部町）教頭会

【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～ ＜令和4年度の重点＞【視点2】組織の活性化を促す教頭のマネジメント		
① 学校組織の活性化とデータの管理、保存の在り方	学校組織の活性化の具体的な実践について	実践における成果について
	1. ミドルリーダーを軸とした教育活動の活性化 (1) 業務改善に対する意識付け (2) OJT 機能を行かした校内研修のサポート (3) 校外の研修会や研究会への積極的参加の呼びかけ	○機能的・組織的な体制強化 ・経営参画意識の醸成 ・協働的組織体制づくり ・資質能力の向上
	データの管理、保存の在り方の具体的な実践について	実践における成果について
	1. 情報管理委員会を核とした環境整備 (1) 職員室共有フォルダの管理 (2) 個人情報に関わる管理規定の設定 (3) 個人情報の持ち出し禁止の徹底。 2. 校務の効率化 (1) 職員室共有フォルダの分類および整理 (2) 教頭フォルダの分類および整理 (3) 諸会議のペーパーレス化	○情報の一元化 ・効率性の向上 ○情報の共有化 ・利便性の向上 ○情報の再利用 ・省力化と正確性の向上 ○保存データの分類 ・業務のスムーズな引き継ぎ ○データ利活用のルールの遵守 ・情報セキュリティの管理・徹底
② 働き方改革との関連性について	働き方改革との関連に係る具体的な実践について	実践における成果について
	1. プロジェクトチームが機能する働き方改革 (1) 業務の見直し ① 業務全般の見直し ② 諸経費の口座振替 ③ 保護者説明会の開始時間変更 (2) 校内研修の実施 2. 校務の効率化 (1) chromebook データの共有化	○業務改善 ・教育活動の質の向上 ○業務の明確化・適正化 ・会計業務の負担軽減 ○教職員の意識改革 ・ワークライフバランスを意識し、誇りとやりがいを持って働くことができる職場環境の整備 ○クラウド環境の整備 ・ICT 活用のアイデアを共有
○課題把握と改善点について（研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください）	視点2に係る具体的な課題について	視点2に係る具体的な改善点について
	1. 校内の組織的な運営 2. 人事異動時の情報共有 3. 在校等時間の長時間化	1. 教職員の資質・能力の向上 ○全体像を見通した業務推進にむけた、適切な調整・助言 2. 教頭データの引き継ぎ ○当該学校相互の活発なコミュニケーション 3. 教職員の意識改革 ○教育活動の活性化や子どもの成長につなげる観点からの指導・助言